

青梅市文化財ニュース

第 1 6 3 号

平成13年5月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

ヒト、ゴミ、カラス

自宅近くのスーパーの駐車場で、1羽のハシボソガラスがビニール袋をつつき回していました。袋の中に残る1枚のせんべいを取り出したい様子です。袋の中は一方が開いており、逆さまに振るえば話は簡単なのですが、カラスは太いくちばしで袋を引き裂こうとしています。人や車が通るたび、電線に非難するので作業は難航。しかし、とうとう袋の中を下にすると、振り出したせんべいをくわえ飛んでいきました。この一部始終を見ながら、思わず「頑張れ、カラス」と無言の応援をしていました。

しかし、最近のカラスとゴミの関係はもっと深刻です。家庭や繁華街から出される生ゴミがカラスの格好の餌になり、カラスが街中に定住、繁殖期には巣も作ります。そんな時、人がうっかり巣に近付いて、カラスから威嚇されたり攻撃されるケースが増えてきました。東京都や荒川区、杉並区などでは、住民の安全確保のため、作業の許可は、実際に被害にあった場合に限ります。カラスは肉食性も強く、子ネコやツバメ、スズメなどを捕食することもあります。私も、カラスに襲われ首を切断されたドバトの死体を、都心の公園で何回か目にしたことがあります。カラスは頭がよい鳥ですが、かなり獰猛な性質も持ち合わせています。

こうしたカラス対策には、ゴミの出し方を工夫することが有効だといわれます。ゴミをきちんと分別し、しっかりした容器に入れる、時間を決めて出し、速やかに回収する、集積所のゴミ袋にネットをかぶせるなどの方法があります。三鷹市のように、夜間のゴミ収集を実地する自治体もあります。そして、一人一人が、ゴミそのものを出さない生活を考える必要もあるでしょう。

以前、青梅市ではダストボックスにゴミを集めていました私の家の前にもダストボックスがあり、溢れたゴミ袋を2～3羽のカラスがよくつついていました。3年前、ゴミ収集の有料化と個別収集が実施され、ダストボックスは撤去。すると、家の周辺でカラスを見かける機会が明らかに少なくなりました。ちなみに、市内のある資源回収者の方に話を伺うと、ゴミ収集の有料化後、ゴミの量は30～40%程度減少し、しかもきちんと分別され「ゴミの質が非常に良くなった」ということです。市内のカラス被害はまだ大問題ですが、何らかの予防効果はあるように思われます。

5月は多くの野鳥の繁殖期、バードウィークなどの多くの行事が行われます。これまでは、いわゆる自然保護の観点から人と野鳥の共存がいわれてきました。これからは、野鳥保護とは一見無関係に見える消費者運動、リサイクル運動などを含め、人の生活の仕方という立場からも、野鳥をはじめとする自然との共存が考えられる時代になりそうです。

(文責 桜岡 幸治)

